

2019.12.16. 「聖書の学び」 もう自分は終わりだと思う時

(新約聖書：第一 テサロニケ人への手紙 3章 6～13節)

神の御言葉に入りましょう。今日、主が私たちの為にご用意くださったことが本当に楽しみです。テサロニケ人への手紙第一 3章です。6節から13節までを見て行き、3章を仕上げてしまいましょう。よろしければ、お立ち下さい。ご無理であれば、そのまま結構です。私が読む箇所について来てください。使徒パウロが聖霊によって書いています。6節から。

「ところが今、テモテがあなたがたのところから私のもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛について良い知らせを伝えてくれました。また、あなたがたが私たちのことを、いつも好意をもって思い起こし、私たちがあなたがたに会いたいと思っているように、あなたがたも私たちに会いたがっていることを知らせてくれました。」

ああ～！ なんと素晴らしい本当に！

彼が言っているのは、「テモテがこの良い報告を持って戻ってきた。」

この朗報。 まず第一に、あなたがたは信仰において大変良くやっている。

そして、私たちがあなたがたを恋しいようにあなたがたも私たちを恋しいと聞きました。とにかく、私の気分が良くなりました。

7節。

「こういうわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦悩と苦難のうちにありながら、あなたがたのことでな慰めを受けました。あなたがたの信仰による慰めです。」

8節、これは興味深いです。

「あなたがたが主にあって堅く立っているなら、今、私たちの心は生き返るからです。」

「あなたがたのことで、どれほどの感謝を神におささげできるでしょうか。神の御前であなたがたのことを喜んでいる、そのすべての喜びのゆえに。」

「私たちは、あなたがたの顔を見て、あなたがたの信仰で不足しているものを補うことができるようにと、夜昼、熱心に祈っています。」

「どうか、[11節] 私たちの父である神ご自身と、私たちの主イエスが、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように。」

使徒パウロは本当に、再度テサロニケに戻りたいと思っています。

「私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いに対する愛を、またすべての人に対する愛を、主が豊かにし、あふれさせてくださいますように。」

「そして、あなたがたの心を強めて、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒たちとともに来られるときに、私たちの父である神の御前で聖であり、責められるところのない者としてくださいますように。アーメン。」

すごい～！

共に、祈りましょう。主よ、ありがとうございます。どうもありがとうございます。

主よ、どうか私たちの心を落ち着かせ、静め、どうかあなただけができる方法で、私たちが専念できるよう、聖霊で満たしてくださいますように。

そして、私たちの気が散らないように、集中させてくださいますように。

今日、あなたの御言葉の中で、あなたが私たちのために用意くださったものを見逃したくないからです。

主よ、あなたの御言葉を通して、私たちの人生に語り掛けてくださいませんか？

主よ、イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン。どうぞお座りください。ありがとうございます。

今日は、私たちの人生の中で、あまりにも落ち込んで、もうやっていけないと思う時のこととお話したいと思います。皆さんはどのように落ち込んだことがありますか？つまり、とても落胆してしまって、どうやってもう一日乗り越えたらいいか分からない。ないですか？私も、ありません。

では、もう祈って終わりにしましょう。冗談でしょう？

先週、私はその聖句に、いつもより多くの時間をかけ、その聖書聖句について、主を求めました。

ここでの教訓は、「決してあきらめないこと」だとはっきり分かりました。限りなく困難でも、私たちが限りなく落胆しても、あきらめないで、前進する。

あなたが「私にはもう無理だ」「もうこれ以上耐えられない」と思う時でも、いえ、そう思う時は、特に。主が私の心に本当に印象付けられたことの一つは、これらのテサロニケのクリスチャンのためにパウロが持っている愛でした。本当に...とっても深い愛があるのです。

彼らに対するパウロの言葉からだけでも、どれほど彼らを愛し、彼らに会いたがっているか。

そして、今日の学びで見えていきますが、彼らの様子が分からなかったために、パウロがどれほど心を乱されていたか。先にこの章の中でありましたが、使徒パウロは、2度も言っています。「もうこれ以上我慢できない！」私はもう我慢できなかつたので、あなたがたについて知るため、テモテをそちらに送らなければなりません。彼は何をそんなに心配していたのでしょうか？

彼の心配事は、すべての牧師が心配すべきことでした。彼らに牧師の心があるならば。

そして、それは彼らが信仰において生み出した人々に対する気持ちです。彼らが影響を与えた人々のことです。パウロが確かにテサロニケで影響を与えたように。

彼は、彼らが自分達の信仰を諦めるかもしれないことを深く心配していました。そしてパウロは、彼らのことを諦めようとはしていませんでした。これまでの節で、パウロは大変心配していたと書いてあります。それは、ここで再び見られるように、もう少しで職務に支障をきたすほどでした。

テモテが良い知らせを持って戻って来て、彼らがうまくやっていたと報告してから、パウロはこの最初の手紙を書きました。彼がどれほど喜んでいるか、彼がどれほど励まされているか。

その際に、彼は私たちにつの理由を与えてくれています。なぜ、私たちは何が何でも絶対に決してあきらめず、いつも、いつも前進し続けるべきか。最初の理由は6~8節です。

それは『励ましが来る』です。

それは、もうすぐそこまで来ています。皆さんがこれに気づいたかどうかかわからないですが、

パウロはあまりにも悩んでいて、ほとんど職務が果たせないところまで来ているかのようです。

彼らのことを心配しているためです。8節で彼の言うことに注目してください。「テモテが戻ってきました!」「この良い知らせ、良い報告を持って。あなたがたが忠実で、」「主にあって堅く立ち、信仰をもって善を行っている。」「今、私は本当に生きることができます。」何ですって?

「本当に生きられる」とはどういうことですか?テモテが良い知らせを持って戻ってくる迄は、生きることができなかつたということですか?「そうです!」

「私には我慢できませんでした!もう一日も耐えられませんでした!私はあなたがたがどのようにしているのか知りたくてたまらなかつたから。私はあなたがたが迫害を受けていることを知っています。

私はあなたがたが苦しみに耐えていることを知っています。私はあなたがたに反対する者がいることを知っています。私は知っているのです。私があるあなたがたと一緒にいた時、——パウロが彼らと一緒にいたのは、約3週間だけだつたと信じる人たちもいます。——

もしかしたら、それがパウロの心配を助長したのかもしれませんが。彼は町から追い出されたんですよ。それが彼がテサロニケをそんな短期間で去らなければならなかつた理由です。彼は、彼らともっと長くいたかつた。彼は、もっと長く一緒にいたかつた。パウロが彼らに基礎を教え、助けることができるように。私たちはそのことも見ていきます。

彼は「今、私は本当に生きることができる」と言っています。

「あなたがた大丈夫だと分かつたから。」

子どもがどこかに行っている時の、親のようなものです。彼はとにかく彼らがどうしているかを知りたいんです。他に何も考えられないかのように。何も手につきません。すごく心配で。

ところで、不安に思うことと心配することの間には、違いがあります。とにかく、それが私の言い分で、私はそれを貫き通します。私の子どもたちはいつも私に「すごい苦労性だ。」と言うからです。

「いや、心配しているのだ。」

「違うよ。心配してるんじゃない。」

「心配してると言うなら、極度に心配してる。だって、すごく不安になってるから。」

「分かったよ。不安になってるよ。でも健全にね！」

私はあなたがたがどうしているかを知りたいので心配なのです。どう過ごしていますか？

そして、ここに問題があります。パウロは彼らに、メールを送ることはできません。

彼はソーシャルメディアに投稿したり、直接メッセージを送ったりすることはできません。

彼らに電話することはできません。ビデオ通話することはできません。パウロはテモテを彼らのところに送って、彼らがどうしているかを調べさせなければなりません。ここで彼は、言ってみれば、息を殺して待っています。良い報告が戻ってくるのを。

まるで彼はこう言っているみたいです。「ああ、これでやっと普通にできる。これで前進する事ができる。これで、私は本当に生きることができる。」

理解しておくことが本当に重要なのは、パウロがこれを書いた時には、彼はコリントにいたことです。

そして彼はコリントにいる間、大きな苦痛と迫害に苦しんでいました。

間違いなく、彼は内心、コリントで一年半を過ごしているのです。彼はテサロニケでそれくらいの時を過ごすことが出来ていれば...と思っていたはずですが、できませんでした。

コリントの教会への最初の手紙第2章3節で彼が言っていることを聞いてください。ところで、これは使徒パウロです。彼が何と言うか、聞いてください。

「あなたがたのところに行ったときの私は、弱く、恐れおののいていました。」

(コリント第一2:3)

「本当に？」

「そうです。」

私がパウロのどういうところが好きかをご存知ですか？それは彼の正直さです。彼の透明性。彼の謙虚さ。私も含めて、もっと多くの牧師が、これほどの弱さを見せることを厭わなければ、と思います。

イエスが「私を離れては、あなたがたは何もできないからである。」(ヨハネ15:5)

と言ったことを思います。

私の特権として、この説教壇の後ろに立たせてもらうたびに、痛感していることがあります。

神を離れては、私には何もできません。私が話す言葉に聖霊が油を注ぎ、力を与えない限り、私は何も言えません。多分私は、皆さんに非常に率直であると思いますが私がここに立って、最初に思うこと

は、「ああ、主よ。本当に…」

そして、こう考えるのは良いことです。それは認めざるを得ません。

本当に、主よ…

「神は、知恵のある者を恥じ入らせるために、
この世の愚かな者を選ばれました。」(コリント第一 1:27)

私のことだ。冗談じゃないですよ？！弱い者が、強い者を恥じいらせる。
パウロは何と言いましたか？「私は自分の弱さを自慢している。」何ですって？

自分の弱さを自慢するとは、どういう意味ですか？
私たちはどうしたものでしょうか。特に牧師として、
—ここでも、私は自分のことを話しているだけかもしれませんが—ここに立つと、
自分の弱さを見せたくないというのは、何なのでしょう？

パウロは「私は自分の弱さを誇る」と言いました。そして、私が自分の弱さを誇るのは、
私が弱いとき、私は「主にあって」強いからです。私は自分自身においては弱い。
そして「主が強い」のは、私が弱い時です。彼は自分が不安でいっぱいなのを認めることを
不名誉だとか、恥ずかしいとか、思っていません。彼は「恐れている」だけではありません。
「恐れおののいて」いると言っています。身体が震えるほど。私はこれが誇張だという印象を受けませ
ん。それが、彼らがコリントにいる間、迫害と苦しみがどれほど厳しかったかです。それに加えて、彼
はテサロニケ人についても非常にストレスを受けています。
少なくともテモテが良い報告を持って戻ってくるまでは。
私は、パウロがコリント教会宛に、どんなに多くのことを経験したかについて書いた手紙について考え
ます。

難破、一度ではありません。3回？ 実際は4回だったと思います。

彼は39回鞭打たれたこと。 何度あったか？

彼は死んだと思われて、ストラの外に放置されました。先週そのことについて話しました。

石打ちされて死にかかり、放置され、そして彼はすぐにリストラに戻ります。

パウロを愛さずにはいられません。彼がそうしてくれて良かった。彼がそうしたお陰で、
多くの人がキリストに導かれたからです。しかし、彼らがコリントにいる間、彼は非常に大きなストレ
スと大変な苦しみを経験しています。彼がどれほどホッとして励まされたか想像できますか？

テサロニケの人々の様子について、テモテが良い知らせを持ってコリントに持って帰って来た時。

「ああ、今、私は安堵のため息をついて、神に感謝することができる！ 主よ、ありがとうございます。
す。彼らは大丈夫だ。」

言いたいのは、こういうことです。あなたが悩み、落胆しているなら、私はあなたを励ましたい。
持ちこたえるのです。決して諦めないで。励ましは、すぐそこまで来ています。そして喜びも。

それが2つ目。9節から11節です。

パウロはとにかく大喜びしています。そして、彼らのことを、神に感謝しきることができません。

彼らのことで、神の御前にこんなにも喜びに満ちていることに。本当に喜んでいるので、彼は、夜昼問わず真剣に祈っている、と言っています。夜昼、と言う理由は、ユダヤ人の日は、最初に夜から始まるからです。それから昼です。昼夜ではありません。彼は、神が道を開いてくださるように、夜昼祈っているのです。行って、彼らに欠けているものを補えるように。彼らに欠けていた、とはどういう意味でしょうか？ああ、彼らは、主を信じて間もない人たちです。そしてパウロはひたすら苦悩しています。

「私は、そこにもっと長く滞在すべきだった。たぶん、私はリストラ同様に、町から追い出された後、戻って行くべきだった。私は戻って、彼らともっと時間を過ごして、彼らに欠けているものを補うべきだった。」

それは主との歩みにおける霊的な成熟のことです。私は、ヨハネの3番目の手紙のことを思います。4節です。

「私にとって、自分の子どもたちが真理のうちに歩んでいる事を聞く事以上の大きな喜びはありません。」(ヨハネ第三 1:4)

ヨハネ同様、パウロの喜びが、彼らが真理のうちに歩み、信仰に堅くたっていることを知って、戻ってきます。最も重要な真理の一つで、私が、主との歩みの中で学んでいることは、困難な時期を経験し、逆境が襲い掛かり、試練が大変厳しい時、非常に落胆し、絶望してしまう傾向がある時、

「敵がすぐそこにいる」ということです。そして彼はこういう風に言います。「これで終わりだな。。。お前はこれを乗り越えられない。これは本当に最悪だから。」

そして、私たちは彼に同意します。

「はい。分かっている。本当に悪い。これは本当に悪い。本当に悪い。」

「お前は、この向こう側にある喜びなど決して知ることは無い。」

「お前は、二度と幸せになることはない。これがお前の今後の人生の定めだから。」「しょうがないだろう。これからはそれが普通なんだ。」

そしてあなたは、それを信じてしまう。それを信じてしまうのです。

私は、自分には神の御言葉の真理を信じるよりも敵の嘘の方に耳を傾ける傾向があることが分かってきました。私は、敵の嘘を信じやすく、騙されやすいのです。なぜなら彼はとても説得力があるからです。彼は偽りの父だからです。彼はあなたの思考にこれらの考えを植え付け始めます。

「これはうまく行かない。」「分かっている。上手く行くように見えないね？」

ところで、祈るたびに、それはさらに悪化していくようなんです。

皆さんにも、そんなことがあったでしょう？皆さんが、何かの状況のために祈っていると、もっとひどい状態になります。

「主よ。これはなんなんですかあ?!」内心、そう考えます。

そして、敵はすぐそこにいます。

「私があなただったら、祈り続けないね。祈るたびに余計に悪くなっているんだから。酷いもんさ。祈

るのを止める！」「それが何の役に立つんだ？」みたいな。

まるで主が、「オーケー、オーケー！ごめん！ごめん！再び祈り始めるといいよ。私がこれ以上悪化させないようにするから、さあ、祈って…」

そうではありません！それは嘘です！

それは嘘です。確かに、難しいかもしれませんが。あなたはがっかりしているかもしれません。

凹んでるかもしれません。本当に苦悩しているかもしれません。

そして、持ちこたえ、頑張って進み続けるのが難しいと感じているかもしれません。しかし、ここに真理があります。あなたがもはや耐えられないと思う時、元気を出してください。もうそこまで、喜びが来ているのですから。このように言いましょ。喜びが戻ってきています。そう言う風には見えません。確かに、そのようには感じられません。

しかし詩篇作者が、詩篇 30 篇 5 節の後半で言っていることを聞いてください。

私はこれが好きで好きでたまりません。

「夕暮れには涙が宿っても朝明けには喜びの叫びがある。」(詩篇 30 : 5b)

魂の暗黒の苦悩を何度経験したでしょうか。真っ暗な道を。「とにかくもう...これで終わりだ！」と。夕暮れには涙が宿っても、主の慈しみは、朝毎に新しい。そして朝に喜びが戻ってきます。

ここが 3 つ目の理由に繋がって行きます。ちなみに最後に最高の内容です。『イエスが来られます。』

ここ、章の終わりの 12 節と 13 節でパウロが祈っているのは、「私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いに対する愛を、また全ての人に対する愛を、主が豊かにし、あふれさせてくださいますように。」お互いのために、そしてみんなのために。それから彼は祈ります。興味深いです。

「神が彼らの心を強め、私たちの主イエスが _____ とともに来られる時、彼らが聖であり、責められるところのない者としてくださいますように。」

[キーワード] ⇒ ご自分のすべての聖徒たちとともに」

何？

主は私たちのために来られます。はい。そうです。

しかし、主は私たちとともに、来られるのです。どういう意味ですか？はい、パウロは非常に重要な区別をつけています。教会携挙とイエス・キリストの再臨とを。

携挙では、主は私たちのために来ます。そして 7 年後の再臨では、主は、ご自分の花嫁としての私たちと一緒に来られます。

ところで、ネタバレ注意。第 4 章に何が待っているかご存知ですか？それは携挙についてです。

神の御言葉の中の、私のお気に入りの章です。神の御言葉の他のすべての章と並んで。テサロニケ第一の 4 章。それは携挙についてです！生き残っている私たちは引きあげられる。

ギリシャ語のハルパツオ。ラテン語のラプトウロ。私たちは、引きあげられ、空中で主と会うのです。

「こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」

(テサロニケ第一 4 : 17)

私たちは7年間、子羊との婚姻を完成させ、祝います。ある人が、「世界が苦難に満ちている間、私たちはお祝いだ。」と言いました。いいですね。私はそれが好きです。7年間。過去にも、そして今も、今日に至るまで、中東の習慣であるように、7年後、大きな祝宴があります。私はアラブ人として自分の文化のここが大好きです。すべては食べ物を中心としています。この大きな祝宴は、婚姻の宴と呼ばれます。それは7の期間の後、花嫁と花婿が婚姻部屋から出現します。

イエスが仰いました。

「あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意に行く、と言ったのでしょうか。」(ヨハネ 14:2)

「わたしのいる所に、あなたがたもいるようにするためです。」(ヨハネ 14:3)

それが約束です。主は、花婿として、ご自分の花嫁に語っているのです。

「私はあなたのために戻ってきます。私はあなたを連れ去り、携挙し、夜の盗人のように来てあなたを奪います。」

そして、私たちの婚宴の部屋にあなたを連れて行くのです。そこで私たちは結婚を7年間にわたって祝い、完成させるのです。その後、私たちは共に現れます。そして、私たちは壮大な婚宴の宴を催します。

なんと素晴らしい～。

それが、ここでパウロが話していることです。彼は、私たちが主と共に来る時の再臨について話しているのです。ところで、皆さんがこれにお気づきかどうかわかりませんが、パウロは彼らの心を、主が戻って来られることに向け続けています。彼は章ごとの終わりにそれをして締めくくっています。

第1章の終わりで、彼は、彼らに待つように言います。

「携挙によって、やがて来る神の御怒りから私たちを救い出して下さる天の御子を待ち望むように。」

そして第2章の終わりに、彼は言います。

「私たちの主イエスが再び来られる時、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのは、いったいどれでしょうか。」(テサロニケ第一 2:19)

しかしここで彼は、「主が私達と共に来られる時」と言っています。

繰り返しますが、彼は、「私たちの為にイエスが来られる携挙」と、

”イエスが私たちと共に来られる再臨”とを区別しています。

私自身の長年の主との歩みの中で、私にとって大きな励ましとなったものの一つは、私が楽しみにできることを”知っている”ことが、何であれ、私が経験していることを乗り越えやすくしてくれるということです。

同じことを異なる方法で言ってみましょう。私たちがこんにち目にしている状況において。

私が、楽しみにできる携挙があると知っている時、それは、ここ地上で私が経験するものを何でも、

無限に、乗り越えやすくしてくれます。何故なら私には、この楽しみがあるのだから。
それが私の祝福された希望です。それはもうすぐそこまで来ており、これが私の支えです。
使徒パウロはこう言うでしょう。苦しみ、苦悩、苦難、試練、
今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に
比べれば、取るに足りないとは私は考えます。

(ローマ 8:18)

ここでパウロは、彼らに思い出させています。彼は今、この良い報告で大変励まされています。
彼は聖霊の力でこの手紙を書きます。彼は彼らに言っています。

「私はまだそちらに行けるように祈っています。神が私に、あなたがたのもとに戻るための
扉を開いてくださいますように。

でも、聞いてください、皆さん。主は来られるのです。

主が私たちの為に来てくださいます。

主が私たちとともに来てくださいます。

皆さんはそれを楽しみにできるのです。

それが私の喜びです！それが私の希望です！それが私の栄光です！」

もうダメだと本当に思ったことのある人の例で締めくくりたいと思います。

ヤコブです。この数週間、主は私にこの族長のことを思い出させました。

彼が人生で最も低い所にいた時のことを。彼は本当に「これまでだ」と思いました。

二度と喜びはない。二度と幸せになることはないのだと。これで終わりだ。私は墓に下って行くのだ
と。まず彼は愛する妻ラケルの死を嘆いています。

そして何年もの間、彼は、愛する息子ヨセフが死んだと思っていました。そして、これでも足りなければ、
彼らは、飢饉の真っ只中にいます。そして彼の息子たちが、エジプトから帰ってきました。

ヨセフとシメオンに加えて、彼らはベニヤミンを連れて戻りたがっています。そして彼は、考えます。

「ベニヤミンも失ってしまうなんて...私にはもう無理だ。生きてられない。」彼の言っていることを聞いて
ください。それは創世記 42 章 36 節に記録されています。

父ヤコブは、それ以外の息子たちに言った。

「『おまえたちは、すでに私に子を失わせた。ヨセフはいなくなり、シメオンもいなくなった。

そして今、ベニヤミンまで取ろうとしている。...』」

それから彼は、この言葉を口にします。私が以前私の人生で、何度もこれを言ったことを
認めなければなりません。そしておそらく皆さんもそうだとおもいます。

「すべてが私に反している。」これは最悪。

「これ以上悪化することはありえない。」ところが、もっとひどくなります。

ヨセフを失ったとき、私はそれが最悪だと思った。そして今、ベニヤミン？

理解していなければいけないのは、ベニヤミンとヨセフが妻ラケルの息子たちで、他の 10 人は妻レア

の息子たちだということです。ヤコブの物語全体を覚えていますか？約7年間働いた後、義父が彼を欺きました。そして、彼は最初にレアと結婚しなければなりませんでした。

その後、ラケルと結婚する為、さらに7年間働きました。

そしてレアは、ヤコブが夕食に行こうと、通り過ぎるたびに妊娠しています。ここに可哀そうなラケルがいるのです。少しふざけてしまいましたが、皆さんポイントは分かりましたね？

ラケルは不妊で...ところで、さらに悪いことに、彼女らは姉妹なのです。

レアは何となく見せつけています。「私、また妊娠したわ〜。」

ラケルは「一体なぜなの?!」

最終的に、彼女はベニヤミンとヨセフという2人の息子を得ました。

皆さん、お分かりではないですか？

ちなみに、これは父親にとって素晴らしい学びです。聖書の中の父親を見て、彼らが父親としていかに子を育てたかを学ぶため。ダビデのことを考えると、彼は非常に良い父親ではありませんでした。

ヤコブのことを考えると、彼はえこひいきをしました。

それは非常に悪いことです。自分の子どもの一人を他の子どもたちよりも可愛がるのは。

とにかく、それはまた別の説教です。しかし、彼は本当にヨセフを好んでいたため、彼の兄弟は彼に嫉妬したのです。彼がヨセフに託したからです。彼はこの衣を彼に与えました。Coat of Many Colors と呼びますが、実際には、多くの部分から成っていました。彼には多くの責任があったからです。

「すべてが私に敵対している。」これ以上悪いことなんてありえない。

彼はこう言った後、言います。「私はただ墓に下るだけだ。」

「ああ、ヤコブ、あなたが、すぐそこまで来ているものを知っていたなら。」

彼には想像もつきません。彼は「終わりだ!」と考えている。もう終わり! 無理なのだ! 私の人生は終わった!

彼が気付いていないのは、彼の人生が変化しようとしているということ。彼が想像もできなかった方向に。

彼は、愛する息子ヨセフに会うのを間近に控えているのです。彼がもう何年も、死んだと思ってきた息子に。今やファラオに次いで、世界で最も力ある人です。本当に非常に魅力的な場面でした。彼らがエジプトに着いたとき、...これはヨセフの家族? レッドカーペットどころではなく、金です!

王族扱いを意味します! 想像できますか? 「すべてが私に敵対している」から、「なんだって? ヨセフは生きていますか?」彼は最も力のある...

ああ! 私は、彼が、若くて生意気な小僧だった時のことを覚えている。

そして彼の母親と私は、彼がこんな夢を見たというので彼に腹を立てました。

私たち全員が彼にひざまずくという夢。

そしてどうなったと思いますか? お父さん。

それはまさに神が言われたとおり。たぶん皆さんは、今朝ヤコブのようかもしれません。つまり、これ

以上悪くなりえない状況。すべてがあなたに敵対しています。私は、皆さんを安心させることで励ましたいのです。私たちの、ヨセフよりも偉大なイエスがすぐそこに来ているのです。

皆さん分かりますよ。待つのです。
もうすぐ分かります。

お祈りしましょう。お父様、感謝します。

主よ、私はただ祈りたいのです。私は、あることを感じています。それは聖霊によるものだと信じています。一人だけではありません。今日のこの礼拝だけでなく、オンラインで視聴している人で、本当にヤコブの気持ちが分かる人がいます。そして、すべてが彼らに敵対していると感じ、彼らはどんどん希望を失いつつあります。落胆が絶望になって行きます。

あなただけができる方法で、いつもそうなさるように、あなたが彼らを励ましてくださいますように。彼らに喜びが戻ってくると安心させてくださいますように。まもなく励ましが来ると。しかし、もっと重要なことは、もうまもなく、あなたが来られる事です。イエスの御名によって祈ります。
アーメン。 アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7